

(様式第3号)

令和5年6月2日

議員視察報告書

赤穂市議会

議長 土遠 孝昌 様

派遣議員氏名 南條千鶴子

下記のとおり、研修会に参加しましたので、報告します。

記

1. 実施日 令和5年5月15日(月)～16日(火)(2日間)

2. 開催場所

- ・5月15日(月) 大阪市東淀川区東中島1-18-22丸ビル別館 新大阪丸ビル別館
- ・5月16日(火) 資料・USB音声データにて受講

3. 講演内容

「新人議員のための質問・財政基礎研修」

講師：村山 祥栄 氏 大正大学地域構想研究所客員教授(前京都市議会議員)

○講演会名 地方議員研究会主催 「新人議員のための質問・財政基礎研修」

- ・5月15日(月) 10:00～12:30 「絶対的質問力」
- ・5月15日(月) 14:00～16:30 「質問作成虎の巻」

・5月16日(火) 10:00～12:30 「急激悪化地方の財政歳入増加策」

・5月16日(火) 14:00～16:30 「持続可能な歳出削減策」

○講師：村山 祥栄 氏 大正大学地域研究客員教授(前京都市議会議員)

※16日の研修会については、急遽委員会が入ったため、後日、資料及びUSBにて受講

【目的】

地方議員として2年が過ぎ、質問力をつけるための基礎を学ぶことが重要であると感じた。また、地方財政の課題や歳入増加策・持続可能な歳出削減策等を学び議員としてのスキルアップがしたく参加した。

【講演内容】

「質問作りの心構え」として

1. 「みんなの不満を形にせよ」

- ・問題とは理想と現実の差異（ギャップ）をいう。
- ・差異＝問題（課題）は判っているが、解決策が全く伴っていないことが多い。
- ・理想に近づける解決策のある政策が重要

2. 「トレンドを掴め！」

①市民は何に満たされていないのか？

したい質問より、聞きたい質問。時流を掴んで質問せよ

②時流を読み！時代はどこへ進むのか！

トレンドは早く掴み、いち早く提言する

イメージと現実の差を埋めろ・・・「真実から目をそらすな！常識を疑え！裏を読み！」

3. 「イメージと現実の差を埋めろ」

- ・世の中は、イメージで満ち溢れている。
- ・「真実から目をそらすな！常識を疑え！裏を読み！」

「質問ネタを探す」には

手法 i：ベストプラクティスをつかう（Dファイル・政策立案データベース・自治体通信等）

手法 ii：専門家の視点の活用（新書・オンライン記事・注目の専門家チェック）

手法 iii：陳情・市民との対話・現場での気づき等

手法 iv：議案説明から質問へ

手法 v：過去の質問を練り直す

質疑準備における注意

①準備は入念に時間を掛けて

事前調査が重要。情報収集に始まり、情報収集に終わる

②一度きりで終わらせない

③価値ある質問を

質疑とは人の時間を奪う事。公共の時間を奪う価値のない質問はしない

④安易な妥協はしない

痕跡を残すことが議会

急激悪化地方の財政 歳入増加策

【財政の基礎知】一・コロナ禍の財政とは？

財政課題を確認

コロナ禍での財政の特徴

1. 歳入（収入）の大幅減少
コロナで企業の業績が悪化して、法人市民税を筆頭に税収が大幅に減収
2. 財政調整基金（貯金）が枯渇
3. コロナ対策で支出増
4. 公営企業の収入減、財政支援増

コロナ後の財政リスク

1. コロナ対策費としての地方交付税交付金の減
2. 金利上昇による利払い増
3. 物価高騰による経費増
4. 景気減退による税収減リスク
5. 社会福祉費の増
6. 維持改修の隠れ負債発覚
7. 子育て支援策等の投機的経費増

○自治体財政圧迫の前に・・・決算黒字に意味はなく➡借り入れも収入 問題は決算の中身

自治体財政圧迫の主要因

①財政運営に問題があるケース（問題先送り）

- ・財政調整基金の取り崩し問題
- ・減災基金（公債償還基金）取り崩し問題
- ・行政改革推進債の活用問題

②国の問題・臨時財政対策債

- ・財政基盤がぜい弱

自治体の予算の柱

⇒国庫支出金・市税収入・地方交付税

③社会保障費の増大

基金の取り崩し・債権の中身

将来負担比率あたりの指標をみるとある程度の状況が読める

・地方自治体も借金を減らす⇒臨時財政対策債増で一向に好転しない悪循環

・市税収入アップ⇒アップさせた分の地方交付税が減（1増えると4分の3減額）

税制基盤がぜい弱・・・但し ➡

交付税は全国の財政力を平準化させるために存在
基準財政需要額に不足している金を国が補う制度
収入不足のために予算が組めないという事はない

結論

■行政改革はやり続けないといけない

■社会保障費の増加スピード以上の改革をやらねばならない

決算のポイント

- ・予算審議の振り返りが重要 本予算+補正予算が存在
- ・予算審議で自身が質問した項目の**反映状況の確認**から議会全体としての課題まで振り返り
- ・予算の適切な執行の確認、事業の評価も重要
- ・自治体議会での決算審査の目的は**翌年度予算に反映させること**

【財政再建の道】 財政再建歳入編

(1)ふるさと納税

- ①返礼品の点数。返礼品点数と納税額は相関関係
- ②出したいものより、欲しい物を 消費者目線でラインナップを！
ふるさと納税の3種の神器と呼ばれる「肉・蟹・米」
- ③ファンづくりを一緒にされたし
- ④ふるさと納税支援補助金
- ⑤企業版ふるさと納税

(2)民間活用維持管理手法

ネーミングライツ、民間の力でトイレを綺麗に・・・維持管理コストが0になる

(3)広告収入とスポンサー収入

ネーミングライツ・広告手法の徹底

(4)企業の協力で収入増！

「まちの募金箱」～まちづくり支援自動販売機～
売上の20%が市に寄付される仕組み
寄付金の用途がわかるようになっている(ボランティア活動やフェスティバルの実施等)

(5)逆プロポで資金を獲得

(6)保有財産の有効活用

(7)貸出資産の再点検を実施し、貸し出しに伴う収入増を目指す

(8)新たな財源確保策 法定外新税

法定外税の増収は交付税が減額されないので全額増となる
(例：京都市空き家税宿泊税)

持続可能な歳出削減策

【財政再建の道】 財政再建歳出編・・・**財政再建の道は歳出にあり**

(1)行政改革 予算編成を見直せ

- 財政運用ルールの厳格化
- 財政調整基金を基準まで貯める事
- 臨財債を含めた債務の圧縮を着実に遂行すること
- 目的外の基金の取り崩しを禁止すること
- 原則的に不用意な債務は認めないこと

歳入と歳出のバランスを直さない限り財政再建は永遠に出来ない

(2)行政改革 事業の見直し

(3)行政改革・無駄遣いのチェック ➡

隠れた経費を足し1回あたりのコストを出す 行政がやるべき事業かどうかの精査 社会情勢や未来予測の観点からまとめる

(4)歳出見直し：生活保護対策、一步手前で生活再建を！（例 野洲市）

(5)金を借りてモノを作る時代は終わった・・・PFI・PFS・SIBの活用

(6)人事制度改革・・・職員のモチベーションの維持向上に繋がる内容を検討！結果コスト削減も

(7)スマート自治体 DXのすすめ・・・コスト削減ならRPAから検討しよう

【所感】

質問の内容においては「市民が何を聞きたいのか」常にアンテナをしっかりと立て、様々な視点でキャッチ出来るようにしていく事が重要であると感じた。また、質問をしていく上で、事前の準備を徹底して行なう事の重要性を再認識した。

長期コロナ禍での財政状況・社会保障費の増加等、地方財政は急激に悪化している。更に、コロナ後の財政リスクがある。

本市においても財政調整基金は枯渇しており財政状況はかなり厳しいため、ふるさと納税等での歳入増加策にも熱心に取り組んでいる。財政再建に向けて、更にあらゆる歳入策、また官民連携の秘策、持続可能な歳出削減策等を、行政改革を進める上で検討していく事は重要であると感じた。議員として市民生活の安定、また希望が持てる財政再建に向けて取り組んで参りたい。